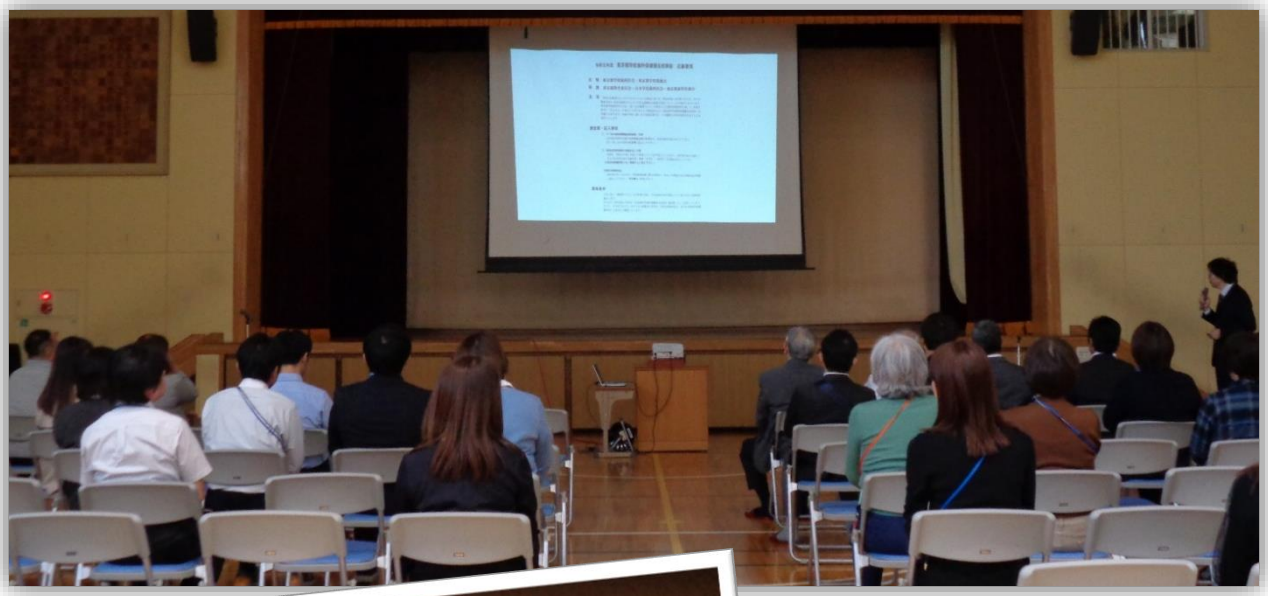
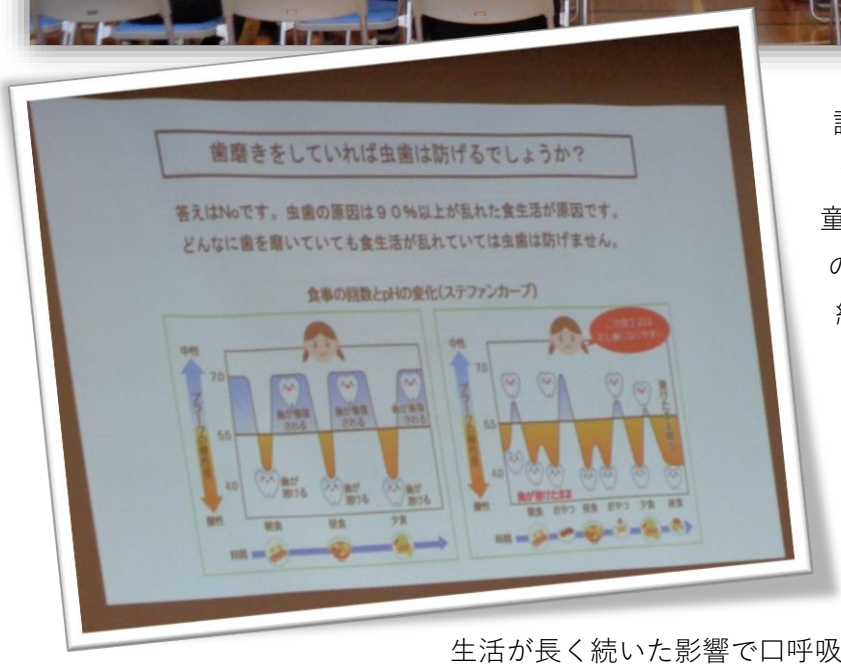
「すくすく一大」実施報告

10 月 28 日（土）の学校公開の日に「すくすく一大」（学校保健委員会）を開催しました。

昨年度に引き続き歯科校医の下田隆司先生に「コロナ禍後に見えてきた課題と保護者・学校の役割」をテーマとして保護者や地域の方、教職員を対象にご講演いただきました。





講演内容の一部を紹介します。

全国的な傾向として、むし歯のある児童は減ってきており、一大小でも同様のことが言える。しかし、6 月の検診結果を分析すると、学年が上がるに連れて、歯みがきに課題があったり、歯肉の炎症が見られたりする児童が増える。その他、歯列や咬合に問題がある児童も含めると、一大小の児童 3 人に 1 人は歯や口の健康に課題があることが分かる。また、マスク生活が長く続いた影響で口呼吸の児童が増えたといわれている。口の中が乾燥し感染症にかかりやすくなる。歯並びが悪くなる等を引き起こすため、口を閉じて鼻で呼吸することを意識させて欲しい。他にも、むし歯の原因には複数の因子があるが、食事時間や間食のとり方など生活習慣も関わるため、むし歯の予防には家庭の役割が大きい。学童期においては、歯みがきも含めた歯の管理を保護者主導で行うことが必要である。

歯の健康は全身の健康につながり、将来の健康寿命にも大きく影響するため、子どもたちが正しい生活習慣を身につけることの大切さを改めて実感しました。学校での指導においても、本日の講演内容を生かしていきたいと思います。

下田先生には、歯のけがや歯みがきについての質問にもていねいに答えていただきました。短い時間ではありましたが、非常に多くの学びがある会となりました。